【266】

氏名	岩佐俊吉（いわさしゅんきち）
学位の種類	農学博士
学位記番号	論農博第280号
学位授与の日付	昭和45年7月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**枳に関する研究** **枳実枳殻の起原と特性**
論文調査委員	(主査)教授 塚本洋太郎　教授 小林　章　教授 三橋時雄

論文内容の要旨

柑橘類は種類が多く，その分類は果樹園芸学の中で一分野を成しているが，なお未解決の問題がある。著者の研究した枳は従来枳殻とよばれてきたカラタチ（Poncirus trifoliata）と混同され今日に到っている。著者は両者がまったく別の種であることを文献学上から考察し，柑橘の強勢台木として用いられる可能性のある雑柑中から実際の枳に当たるものを見出し，両者の混同の歴史的経過や，分類上の特徴や果実成分の特殊性を明らかにし，つぎの諸点を指摘している。

（1）中国の古文献には枳実・枳殻と共に枳の字を用いて説明している植物があり，その記載を詳しく調べると，明らかに枳殻と区別すべきであることがわかる。すなわち，枳の果実の薬用価値は枳殻の果実のそれよりはるかに高く，枳殻が三出葉をもっているのに対し，枳は有翼の単葉をもっていることが主な相違点である。

（2）枳が中国から日本に入ったのは17世記の半ばで，その後分類学的相違点が明らかにされていたが，明治以後不明瞭になった。なお，17世紀以前，わが国の本草家は中国の古文献によって枳の特徴を知っていたと考えられる。

（3）著者は古文献によって枳に関する概念を設定し，わが国に現存する柑橘の中からそれに核当するもの5種（サツマキコク，コネジメ，紀州キコク，トウス，コネジメキコク）を選別した。これらの起原を調べたところ，歴史的な関連が認められた。これらの5種は相互に形態的な相似性が強く，それらの種子は多胚性で，果皮のナリンギン，ポンシリンの含量が高く，にが味が強いなどの特徴をもっている。染色体も調べたが，核型分類を行なうことはできなかった。

（4）以上の研究によって，これらの5種の柑橘は同一種であって，枳に該当し，その柑橘分類学上の位置を検討した結果Citrus neo-aurantiumにあたるものと結論している。

論文審査の結果の要旨

柑橘類には多くの種と雑種が含まれ，その分類は柑橘学上の一問題とされてきた。著者は柑橘の台木を研究している過程で，古文献に現われている枳が，今日一般に台木として用いられている枳殻（カラタチ）とは異なるものであることに着眼し，実際に集められた台木用の雑柑の中から，枳に該当するものを選別し，その特徴を分類学的に明らかにし，その分類学上の位置を定めた。

著者の研究によると，中国から枳が日本に渡来したのは17世紀であって，徳川時代の本草書は枳と枳殻を明らかに区別していたが，明治以後その区別は不明瞭になった。主な区別点は枳の果実の薬用効果が枳殻の果実(枳実)のそれより優れており，葉の形態の相違，すなわち枳の葉が有翼の単葉であるのに対し，枳殻の葉は三出葉であることである。これらの区別点から見て枳に該当する柑橘を調べ，サツマキコクその他合計５種を明らかにした。それらの起原を調べたところ歴史的な関連が認められた。それらの５種の形態および果実成分を相互に比較した結果，それらが同一種であって，分類学的にはCitrus neo-aurantiumとするのが適当であるとの結論に達した。

以上のように，著者は枳の特徴を文献学的および分類学的に明らかにした。この研究結果は園芸学に貢献するところが大きい。

よって，本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。